

令和5年度 授業改善推進プラン<美術科>

大田区立大森第十中学校

○美術科における令和4年度授業改善プランの検証

■取り組みにおける成果

今年度も授業カードにおいて毎時間授業の振り返りを行った。次回への取り組みに繋がっていき、意識をもって制作を進めることができた。鑑賞アートのカード記入も隔週行い、作品制作にもつながる声掛けを行った。また、美術作品に対する興味の幅も広がっていった。また身に付けてほしい知識・技能について、各授業で資料集等を用い、繰り返し説明することで、目的意識を高め、課題に取り組む意欲を高める指導を行った。

個別に作品修正の指示を細かく出していくうちに、生徒自身の作品の完成度が高くなっていくのと並行して、どの生徒も概ね前向きに持続して取り組むようになり、意欲・態度の改善に成果が見られた。発想・構想力についても肯定的な評価と、一人一人との細かいやりとりを継続的に心がけた。以前より工夫やアイデアに意欲的になった生徒が増えた。

■今後の課題

観点①<<知識・技能>>

課題→、与えられた時間内で計画的に仕上げる力をつけさせる。

→作品を最後まで仕上げきる＝達成感のもたせ方。

観点②<<思考・判断・表現>>

課題→各生徒がもつ表したいもののイメージの広げ方、具体化の方法、構想を深めさせる手立てについてタブレット検索を交えての作品資料収集の為の指導が必要である。

観点③<<主体的に学習に取り組む態度>>

課題→よりよいものを創ろうとする生徒個々の意欲を引き出し方について検証が必要である。

→題材や表現方法の工夫と精選を毎時間振り返りを行うことで文章化し、意識して今後の表現につなげる。

○美術科における観点別の分析

■「知識・技能」

・実技教科の要である具体的な表現方法を個々の個性に合わせて掴むことができるように導いていく。

■「思考・判断・表現」

・自分のイメージを形や言葉で表すことに時間がかかってしまう。

・身に付けた知識を応用し、表現できる生徒が少ない。

・タブレットによる情報収集が著作権法に引っかからないようにする。(単なる真似にならないようにする。)

■「主体的に学習に取り組む態度」

・振り返りカード使用により学びが積みあがっていくように毎時間の取り組みを徹底させる。

○検証に基づいた授業改善のポイント

・引き続き生徒の実態と社会変容に目を向け、ICTの効果的な使用で、よりわかりやすく効果的に生徒主体の授業を組み立てる。生徒同士が関わり合うことで学び合う場面を多く作り出していく。

- 1 技能が苦手とされる領域の克服
→制作毎に課題の明確化、基礎技術の練習方法の工夫を行う。
→実演を多く取り入れて、書画カメラで具体的に示す等、個別指導の充実を図る。
- 2 イメージ力や表現力の定着
→自己の作品イメージを明確にしやすい教材の工夫と活用を図る。
→アイデアを生み出すための資料整備と各自の収集資料の活用について事例を示す。
- 3 主体的な創造活動の充実
→生徒が興味をもち意欲的に取り組みやすい題材の工夫を図る。
→個別指導の充実と肯定的な評価。「何が評価の対象となるのか」をしっかりと指し示す。
→生徒同士が関わり合い、作品を見合い影響を与え合いながら個々の作品の幅を広げていく。

○美術科の授業改善策

■ポイント1について

作品のもつ造形的要素による印象や効果の違いを比較したり、実演指導を個々に取り入れて実際に試してみたりする学習活動により、理解度や技術の習得を図る。

また、授業ごとに工夫した点や進度、次の授業の目標などを記入した制作記録の記入により、生徒が見通しをもって表現活動しているかの確認や、制作進度を把握することで、結果だけでなく制作過程を評価することができる。

第1学年…小学校での学習内容の流れを踏まえ、材料や用具の基本的な使い方の反復練習を増やす。

第2学年…意図に応じた表現方法ができるよう、制作内容を確認しながら定着度を把握する。

第3学年…画材や技法等、練習を繰り返す中で応用力や造形性を身に付けさせる。

■ポイント2について

形や色彩などの特徴に意識を向けて考えさせ、アイデアスケッチや言葉などで考えを整理する活動を取り入れる。

また、生徒が表現方法を選択したり、試行錯誤したりしながら創意工夫する場面を意図的に位置づける。これらにより生徒がどのように思考・判断・表現したか、その過程を読み取る。

第1学年…自己の作品イメージを明確にしやすくする教材を工夫し、活用させる。

第2学年…素材や技法の特性を生かした発想表現ができるよう、新しい題材を取り入れる。

第3学年…自己表現のためのイメージ資料収集を充実させ、タブレットなども活用する。

■ポイント3について

授業中の机間指導による観察、問いかけ、制作記録などから、創造活動への主体的な取り組みを読み取る。

第1学年…図工から美術の表現領域『絵画・彫刻』『デザイン・工芸』への関連やステップアップを示し、学習段差を減らす。

第2学年…表現領域を絞って制作時間を確保し、表現活動を深めさせていく。

第3学年…作品の数を限定して、集中して制作させることで完成度を上げさせる。